

各関係機関長 殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター  
病虫害防除所長  
(公印省略)

令和2年度農作物病虫害発生予察情報について

令和2年度農作物病虫害発生予報及び月報を発表したので送付します。

令和2年度農作物病虫害発生予報第1号

令和2年5月1日  
徳島県

I. 普通作物

早期水稻

イネミズゾウムシ

1) 予報内容

発生時期 平年並(前年並)  
発生量 平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

- (1) 4月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が36.4%と、平年(16.9%)に比べて高いが、25株当たり  
の本田生息虫数は0.6頭と、平年(0.8頭)並の発生である。
- (2) 高松地方気象台が4月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ  
平年並で、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れる日が多いと予想されており、発生助  
長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生状況に注意し、薬剤の育苗箱施用を行っていない圃場で成虫が多発した場合には、薬剤を水面  
施用する。
- (2) 根腐れしやすい水田では幼虫被害が助長されるので、深水を避け、根を健全に保つ。

II. 果樹

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量 平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

- (1) 4月第6半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が1.3%、発病葉率  
が0.0%、発病果率が0.0%)。
- (2) 令和元年9月3半旬及び10月3半旬の巡回調査では、発病葉を認めていない(平年同時期も発生を  
認めていない)。また、令和2年3月4半旬の芽基部の調査でも、発病を認めていない(平年同時期  
は発生圃場率が8.8%、芽基部発病率が0.2%)。
- (3) 高松地方気象台が4月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ  
平年並で、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れる日が多いと予想されており、発生に  
は中間的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 防除暦に準拠し、防除に努める。

## 赤星病

### 1) 予報内容

発生量 平年より少なく(前年より多い), 発生程度は「少」

### 2) 予報の根拠

(1) 4月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が12.5%, 発病葉率が0.6%と, 平年(36.6%, 4.8%)に比べてやや低い。

(2) 高松地方気象台が4月30日に発表した1か月予報では, 気温は高く, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 天気は数日の周期で変わり, 平年と同様に晴れる日が多いと予想されており, やや発生抑制的な気象条件である。

### 3) 防除上注意すべき事項

(1) ビヤクシン類からの病原菌(小生子)の飛散ピークは過ぎたと考えられるが, 5月上旬頃まで飛散する可能性があるため, 防除暦に準拠し, 防除に努める。

## 果樹共通

### 果樹カメムシ類

#### 1) 予報内容

発生時期 平年よりやや遅い

発生量 平年並(前年より少ない), 発生程度は「中」

#### 2) 予報の根拠

(1) 2月に実施したチャバネアオカメムシの越冬調査(11地点×2か所調査)では, 5地点で越冬を確認, 越冬成虫は0.7頭/m<sup>2</sup>であり(10年間で6番目に高い), 平年(2.3頭/m<sup>2</sup>)並で, 前年(成虫確認地点数は9地点, 越冬成虫数は7.0頭/m<sup>2</sup>)に比べて低い越冬密度であった。

(2) 今春の予察灯調査においては, 勝浦町, 上板町いずれにおいても4月第5半旬まで誘殺を認めていない(平年(4月1半旬~4月5半旬)は勝浦町 8.7頭, 上板町 9.4頭)。

(3) 高松地方気象台が4月30日に発表した1か月予報では, 気温は高く, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 天気は数日の周期で変わり, 平年と同様に晴れる日が多いと予想されており, 発生助長的な気象条件である。

#### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 果樹園周辺の雑木林(サクラ, キリ等)から成虫が飛来するので, 園内を巡回し, 飛来を認めたら早急に防除を行う。

(2) 夜行性の虫なので, 薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。

(3) 移動性が高いため, 広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

## Ⅲ. 野菜

### 夏ネギ

#### さび病

##### 1) 予報内容

発生時期 平年よりやや早い

発生量 平年より少なく(前年より少ない), 発生程度は「少」

##### 2) 予報の根拠

(1) 4月第6半旬の巡回調査では, 発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が10.9%, 発病株率が1.2%)。

(2) 高松地方気象台が4月30日に発表した1か月予報では, 気温は高く, 降水量及び日照時間はほぼ平年並で, 天気は数日の周期で変わり, 平年と同様に晴れる日が多いと予想されており, 発生には中間的な気象条件である。

##### 3) 防除上注意すべき事項

(1) 肥料切れすると発生が多くなるので, 適切な肥培管理に努める。

(2) 発生前または発生極初期から, 定期的に薬剤を散布して予防する。

(3) 罹病葉を圃場に放置すると伝染源となるので, 速やかに圃場外で処分し, 病原菌密度の低下に努める。

#### ネギアザミウマ

##### 1) 予報内容

発生量 平年よりやや多く(前年よりやや少ない), 発生程度は「中」

##### 2) 予報の根拠

(1) 4月第6半旬の巡回調査では, 発生圃場率が88.9%, 葉の被害度が4.9と, 平年(73.8%, 5.4)並

の発生である。

(2)高松地方気象台が4月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れる日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (2)被害葉は発生源となるので、圃場周辺に放置せず、速やかに処分する。

ネギハモグリバエ

1)予報内容

発生量 平年よりやや少なく(前年よりやや多い)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

- (1)4月第6半旬の巡回調査では、発生圃場率が44.4%、葉の被害度が0.2と、平年(82.1%、4.3)に比べて低い。
- (2)高松地方気象台が4月30日に発表した1か月予報では、気温は高く、降水量及び日照時間はほぼ平年並で、天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れる日が多いと予想されており、発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

- (1)播種時又は定植時に粒剤を土壌処理し、被害発現を遅らせる。
- (2)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。
- (3)被害葉は有力な発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。
- (4)春から夏にかけて発生が多く、特に5～6月が少雨の年に多発する。

IV. その他

- 1)薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。
- 2)水田に薬剤を使用したときは、7日間以上止水する。

**発生量の表示**

**発生程度：甚>多>中>少>無**

**発生量：多い>やや多い>並>やや少ない>少ない**

徳島県立農林水産総合技術支援センター病虫害防除所  
URL : <https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujoso/>

- 病虫害の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。